

精神薄弱児教育に関する研究

—児童・生徒と特殊学級に対する親の態度について—

大西誠一郎	丸井文男	山田良一*
生源寺靖治*	秦安雄**	久留一郎*
岩井文子*	村上英治***	鈴木康平****
荻野惺	富安芳和*	

I 問題の所在

この研究は、昭和35年以來、われわれが、精神薄弱児教育に焦点を置いて、特殊教師と児童・生徒をめぐる諸問題を多面的に分析、追求してきた一連の研究の一環として、児童・生徒を中心とする、親の態度について、幼少時から、特殊学級入級時、および、将来に対する期待を通して、その実態を把握しようとしたものである。

特殊児童についての家庭における親の態度は、普通学級における以上に教師の児童・生徒に対する指導上にも多くの影響を与えることは、広く指摘されていることであるが、ことに、精神薄弱児に対する親の態度は、精神薄弱として親が認知した段階から、親自身の人生観をも変容させてゆき、そのことによって、児童・生徒の人格の発達にもさらに影響を与えるという相互作用は、ローゼン (Rosen, L), 三木, 鰥らの研究によって指摘されていることである。

* 名古屋大学大学院教育学研究科学生

** 日本福祉大学助教授

*** 名古屋大学教養部助教授

****名古屋女子大学助教授

- (1) 「精神薄弱児に対する親の理解、教師の理解」名大教育学部紀要 1960. Vol. 6
- (2) 「特殊学級教師の行動パターンの形成と変化に関する研究」名大教育学部紀要 1961. Vol. 8
- (3) 「精神薄弱児教育に関する研究」(補遺) 名大教育学部紀要 1962. Vol. 9
- (4) 「指導者と被指導者の関係に関する教育心理学的研究」名大教育学部紀要 1963. Vol. 10
- (5) 「特殊学級における教師・児童の人間関係に関する研究」名大教育学部紀要 1964. Vol. 11
- (6) 「教師の評価」—学校教育全書 6 特殊教育— 1965.
- (7) Rosen, L : Amer. J. Ment. Defic. 1955. Vol. 59
- (8) 三木安正：「精神薄弱児をもつ親の態度」精神薄弱児研究 1959. No. 15
- (9) 鰥幹八郎：「精神薄弱児の親の子供受容に関する研究」京大教育学部紀要 1962. Vol. 8

親の理解度、受容度は、子供の現状の理解、教育的期待度、対社会的態度、および、親の内的なうけとめ方などによって、いくつかの段階に分類されるようである。

われわれは、特殊学級に在籍する精神薄弱児の親のもつ子に対する認知の様相を把握し、同時に特殊学級に対する親の認識と期待などからその基本的問題の所在を明らかにしようとしたのである。

II 対象

愛知県下所在の小学校、中学校に併設されている特殊学級 164 学級に在籍する全児童を対象として、調査は、質問紙法(附資料参照)による親から回答を求めたものと、担当教師が、個々の児童・生徒および家庭、親について記入したものとの 2 種の方法を用いた。具体的には、各担任教師宛に担任学級の児童・生徒の父兄数の質問紙調査用紙を一括同封郵送し、担任教師が個々の児童・生徒について記載したものと、親からの回答をまとめて、教師からの返送を求めた。調査期間は、昭和 39 年 7 月で、夏季休暇直前であったため、未回収も少なくなく、ことに調査時期をおくれ休暇後に回答されたものもあつたが、資料の整理には省いた。また、担任教師からの回答には、記載されていても、親からの資料が未提出なものもあり、2 種の調査が完全に揃って、資料として用いたものは全児童・生徒数 1,759 名中 883 名であった。内訳は Table 1 の通りである。

在籍数と、調査対象数の算出の時期に約 9 カ月のずれ

Table 1 対象の内訳

	在籍数	対象数
小学校	1,049名	547名 (52.1%)
中学校	710	336 (47.3%)
計	1,759	883 (50.2%)

(在籍数：昭和 39 年 4 月現在)

精神薄弱児教育に関する研究

があるが、一応回答率は50%である。なお、男女の比率はやや男子が多く、493名と390名であって、特別な偏りはみられない。

III 手 続

2種の調査項目は、次の通りである。

III 1. 教師記入の項目の構成

児童・生徒について個別的に、生活年齢、IQ、精神の原因、親の職業、家族構成の他に、次の点について評定を求めた。

(1) 親の社会階層の評価

上、中、下の3段階にして、特別な評価の枠組を設定しないで、教師の判定にまかせた。

(2) 親の子供の教育・特殊学級への熱意度

学級や児童生徒に対する親の態度を教師の判断によって強、普通、弱の3段階に評定するように依頼した。

(3) P T A等の会合への参加度

これも、熱心、普通、無関心の3段階に、教師に評定を求めた。

この教師に依頼した項目は、Face-Sheet的な項目を含めて、親の認知している児童・生徒に対する理解度、特殊学級に対する態度との関係を把握するためのものである。

III 2. 親に対する質問紙調査の項目の構成

親に対する質問紙の内容は、17項目（附資料参照）から成っているが、主なるねらいは、

(1) 親の児童・生徒の知的遅滞の認知度

(2) 精神薄弱児と認定した時期とその時の親の感情的態度

(3) 特殊学級に対する親の理解度

(4) 特殊学級に対する親の期待・要望

などであって、その他「手をつなぐ親の会」などの参加度をも調べた。

これらの17項目のなかには、尺度評定法形式のものと、自由記述を求めたものとがあり、項目のねらいによって方法を変えた。

III 3. 資料の整理

教師の記載した資料と、親の回答とを児童・生徒ごとに個別につきあわせ、両者の各項目別に、IBMによってCross-Tabulationを行なった。しかし、親に求めた自由記述の各項目については、われわれが、期待したような親の内面的な態度を引き出すことは、困難であった。ことに、出生時より今日までの育成の過程で、親の感情の変化を把えようとした項目については、われわれの意図した反応をうることは、かなり困難であったの

で、これらの項目の結果については、今回は、整理の対象から省いた。このことは、質問紙によって、精神薄弱児の親に反応を求めるとの限界を示しているともいえよう。なお、この項目以外にも、自由記述の項は、無回答がかなり多かったことも、方法的に反省を要する点である。

IV 結果とその考察

IV 1. 親の職業階層と精神薄弱の原因との関係

精神薄弱の原因については、親の職業的階層との間に何らかの関係を見出そうということは、すでに若干の資料が得られているが、われわれも、このことを意図して、両者の関係をみようとした。精神の原因の分類には、各種の方法があるが、最も一般的な分類を採り、Table 2 のように分けた。このうち、てんかん（ヒキツケ）の項については、他の項目との間に二重のチェックがなされたものが含まれている。親の職業階層については、教師の記載に際しては、具体的な記述を求め、それを、一応、社会学的調査で用いられている、新中間層、旧中間層、労働者階層の3階層に分け、無職その他を若干別欄に分けた。

この両者の関係をみると、まず問題となる点では、精神薄弱の原因について無記入が非常に多く、医学的な精密な診断、および検査がなされていない児童・生徒が半数近く存在することである。このことは、精神薄弱の場合、個人の原因によってかなり特徴を示すものであるので、教育を実践する上にもっと多くの適確な診断がなされる必要を痛感する。Table 2に分けられた原因別は、ある程度診断の明らかにされたものであろうが、これによると、家族性、あるいは単純性精神薄弱といわれている正常人集団の分布から偏倚した低知能群は、新中間層に少なく、労働者階層に最も多いといえる。

このことは、職業階層の性格からみて妥当な結果で、一般に指摘されている通りの結果である。熱性疾患が旧中間層に多いことは、旧中間層のなかには、都市部よりも、農漁村部などのものが多く含まれていることにも関連があろう。脳性小児麻痺も、新中間層にやや少ない傾向があるが、出産時障害、胎生期障害、モンゴリズムなどには、あまり階層別の差異はみとめられていないが、これは、むしろ当然のこととして肯定されよう。

IV 2. 特殊学級入級についての親の態度と

I Qとの関係

丸井は、過去5年間にわたって名古屋市内の新設される特殊学級の入級児童・生徒の判定の診断を実施してきたが、特殊学級に対して、自発的に入級を希望するもの

共同研究

Table 2

親の職業階層と精神薄弱の原因との関係

(各欄下段は百分率)

親の職業 階層	精薄の 原因 原因性・ 単純性	家族性 ・單純性	出産時 障害	栄養 障害	外傷性 ・(事故など)	熱性疾患 (脳炎など)	胎生期 障害	幼児期 障害	脳性 麻痺	てんかん・ ヒキッケ	モンゴリズム	不明	総 反応 数	
新中間層	27 14.4	9 36.0	6 20.7	6 24.6	23 29.1	11 39.2	7 46.6	6 23.7	20 37.3	6 28.6	4 66.6	4 21.3	79	
旧中間層	58 31.0	9 36.0	11 38.2	4 16.4	30 43.4	6 21.5	7 46.6	9 35.7	21 39.3	8 38.0	1 16.7	1 34.2	127	
労働者階層	89 47.5	6 24.0	8 27.5	7 30.3	13 18.8	10 35.7	1 6.8	11 40.5	9 16.2	6 28.6	1 16.7	1 26.7	99	
無職	5 2.6		1 3.4	2 8.2		1 3.6					1 4.8		11 2.9	
無回答	2 1.0	1 4.0	1 3.4	1 4.1	4 5.8					3 5.4			32 8.6	
その他	6 3.2		2 6.8	4 16.4	2 2.9					1 1.8			23 6.2	
実数	187 38.4	25 4.9	29 5.9	24 4.8	72 14.4	28 5.7	15 3.1	26 5.0	54 12.0	21 4.6	6 1.2	487 100		

から、極度に拒否的態度をもつ親まで、かなり山が広く、この親の態度が入級の決定に大きく影響するが、それとともに、児童・生徒に対する親の認知の在り方が、背景としてうかがわれることで、現在、特殊学級該当者を入級させるための現実的な障壁の一つにもなっているものである。これについて、教師の記載した児童・生徒のIQとの関係をみたのがTable 3である。

Table 3 特殊学級入級についての親の態度とIQとの関係

I分布 Q持 能	本た 当はい やだつ	他がつ た同胞 がい や	入級 を希 望し た	他み て親決 のめ たた 度を	入な 級気 持し 持た てあ 複雑た れを	そ の た れ 度を	無 回 答	計
不能	1 7.1	13 92.9					14 1.6	
~24		7 63.6	1 9.1	1 9.1	2 18.2		11 1.4	
25~49	25 14.1	10 5.7	13.1 74.0	1 0.6	1 0.6	5 2.8	4 2.3	177 20.0
50~74	122 26.0	47 10.0	230 49.0	15 3.2	7 1.5	18 3.8	30 6.4	469 53.1
75~	51 30.0	27 15.9	61 36.9	5 2.9	3 1.8	7 4.1	16 9.4	170 19.1
不明	9 21.4	30 71.4			2 4.8	1 2.4	42 4.8	

入級についての親の態度は、「入級を希望した」が、全体の半数以上で最も多く、次は、「本当はいやだった」が約23%強でこれに次いで多い。これをIQ段階別にみると、50~74までの一応規準のわくに入るものが、53.1%

で、それ以外は、不明の4.8%を除き、49以下と、75以上がほぼ半々である。これは、過去のわれわれの調査の西日本地区、267学級を対象とした場合の分布とほぼ大差なく、わが国の特殊学級の一般的傾向といえよう。この両者の関係をみると、「入級を希望した」ものは、IQの低い子をもつ親ほど多く、IQが高い子をもつ親ほど、少なくなっている。これと逆に、「本当はいやだった」ものは、IQの高い子をもつ親ほど多くなって、丁度対照的な傾向を示している。「他の同胞がいやがった」というものも、同様な傾向を示しており、一応理解しうる結果である。しかし、「本当はいやだった」とするものが、75以上は除外しても、50~74の段階にも4分の1程度、存在することは、親の、子の行動・態度に関する観察などをもとにした日常の生活においても親の真の理解が充分とはいえないといえよう。

IV 3. 特殊学級入級についての親の態度と社会階層との関係

次に、これを親の社会階層との間の関係においてみてみると、Table 4に示す通りである。この社会階層は、児童・生徒の担任教師が3段階に評定したものであるが、精神薄弱児の家庭の階層は、下層がかなり目立って多いといえる。これは、家族性、単純性精神薄弱に属する児童・生徒が比較的下層の階層に多いことと直接な関連があろうと思われる。この社会階層と、入級に対する親の態度との関係では、ほとんど、各階層とも、入級に

* 「特殊学級教師の行動パターンの形成と変化に関する研究」名古屋大学教育学部紀要 Vol. 8. 370頁

精神薄弱児教育に関する研究

Table 4 特殊学級入級についての親の態度と社会階層との関係

社会階層	親の気持	本当にやだつた	他のついた同胞がいだつた	入級を希望した	他の親決のめの度を希望した	入な氣持	その他の	無回答	計
		1	2	3	4	5			
上	14 28.0	0 0	28 56.0	0 0	1 2.0	4 8.0	3 6.0	50	
中	117 22.9	50 9.9	290 57.3	15 3.0	8 1.6	14 2.8	27 5.3	521	
下	73 24.8	34 11.6	152 51.7	6 2.0	3 1.0	15 5.1	21 7.1	304	
無回答	3 37.5	1 12.5	2 25.0	1 12.5	0 0	1 12.5	0 0	8	

際して態度の差を示していない。これは、やや予想に反した結果ではあるが、結局、Table 3 の結果と対比してみると、親の入級に対する態度は、子の知的遅滞度によって規定されるということで、親の社会階層による態度の相異は、みとめられないといえよう。

IV 4. 特殊学級に対する親の期待、要望と児童・生徒の生活年齢との関係

対象となった児童・生徒を生活年齢(満才)によって、3段階、すなわち小学校低学年、高学年、中学校にわけて、それらの生活年齢の子をもつ親が、特殊学級に入

級させて以後、いかなる領域や、問題を教師に期待し、要望するかを考えようとした。この特殊学級の教師についての要望の項目については、この調査の方法が、密封して教師のもとへ一括回収する方法をとったにもかかわらず、無回答(無記入)が、半数近くにたつた。これは、質問紙調査のはじめに、担任教師とは、全く無関係であることを強調して、記入を求めたので、教師に対する遠慮的配慮はできるだけ避け得たはずであるが、教師回収の影響も多少含まれているかも知れない。(Table 5)

しかし、この無回答半数は、子が特殊学級に入級している現在、積極的に感謝する極く少数を除いて、やや無関心に近い親の態度がかなり含まれているのではないかと考えられる。その点では、この無回答が半数に近いことは、その意味を洞察する必要があろう。

親の要望や期待する領域別にみると、「特ない」とはっきり回答しているものを除き、学習面について、もっと、ものをよく覚えるように、勉強ができるようにという要望、期待が一番多い。

児童・生徒の年齢段階との関係では、中学校に職業指導を要望するものが他に比して多いのは当然であるが、級編成については、小学校の方に要望が多く、生活指導についての要望も高年齢群の子をもつ親ほど多いようである。

Table 5 特殊学級に対する要望と児童・生徒の生活年齢との関係

	1 学習	2 生活	3 職業指導	4 教師	5 級編成	6 社会理解	7 感謝	8 特ない	9 その他	10 無回答	計
6~8才	11 8.4	2 1.5	1 0.8	5 3.8	5 3.8	5 3.8	5 3.8	23 17.6	4 3.1	70 53.4	131
9~11才	36 11.1	10 3.1	4 1.2	20 6.2	11 3.4	11 3.4	24 7.4	54 16.7	6 1.9	147 45.5	323
12~15才	50 12.3	23 5.7	20 4.9	23 5.7	7 1.7	20 4.7	15 3.7	42 10.3	8 2.0	199 48.9	407
不明		1 8.3						1 8.3		10 83.4	12

親の特殊学級への要望の項目

- 1 学習……教科学習を中心にしてほしい。
- 2 生活……生活指導、生活学習を中心にしてほしい。
- 3 職業指導……職業指導及び就職活動を要望。
- 4 教師……教師交替及び直接教師に関する要望。
- 5 級編成……クラスの編成がえ、クラス数の増加要望。
- 6 社会理解……一般社会の特殊学級に対する理解及び精薄施設要望。
- 7 感謝……教師、学校に感謝している。

共 同 研 究

Table 6

親の特殊学級に対する要望と、満足度との関係

親の要望 親の満足度											計
	1 学習	2 生活	3 職業指導	4 教師	5 級編成	6 社会理解	7 会解	感謝	特にい ない	その他	
とてもよろこんでいる	28 8.1	12 3.5	14 4.1	19 5.5	12 3.5	20 5.8	32 9.3	53 15.4	7 2.0	147 42.7	344
一応満足している	29 9.4	15 4.9	8 2.6	16 5.2	7 2.3	11 3.6	7 2.3	48 15.5	8 2.6	160 51.8	309
特になにもかんじていない	11 16.9	2 3.1	1 1.5	4 6.2	2 3.1	2 3.1	2 3.1	9 13.8		32 49.2	65
よくなっているかない	9 21.4	3 7.1		6 14.3	2 4.8	1 2.4		4 9.0	2 4.8	15 35.7	42
普通学級にもどしたい	15 22.4	2 3.0	1 1.5	2 3.0		1 1.5	3 4.5	5 7.5	1 1.5	37 55.2	67
無回答	5 10.9	2 4.3	1 2.2	1 2.2		1 2.2		1 2.2		35 76.1	46

(その他に入る項目別の分類はここで省いた。)

IV 5. 特殊学級に対する親の要望と入級についての満足度との関係

次に、これらの親の要望、期待と、特殊学級に入級したことについて、親がいかなる程度に満足しているかとの関係をみたのが Table 6 である。

ここでも、親の要望の項について無回答が多いので、甚だ不充分な結果しか得られていないが、親の満足度では、約40%近くがかなり強い満足度を示し、一応満足していて、否定的考え方をもっていないものを含めると、73%以上に達する。親の要望との関係では、学習面に要望、期待の強い親ほど、自分の子がよくなっているかない、普通学級にもどしたい希望をもっていることがわかる。また、特に要望をもっていないと積極的に回答した群では、親の満足度は、「とてもよろこんでいる」、「一応満足している」ものが多い。これは、一応当然のことがあるが、生活指導、級編成、社会の理解などは満足度との間に積極的な関係はみとめられず、ただ教師の交替、および教師に対する直接的な指導の要望の強いものは、子が「よくなっているかない」という親の不満足度と関係がみられる。

これらの学習面での期待過大の親、あるいは、子の一般的な行動、生活態度を含めて「よくなっているかない」と期待に反した不満をもつ親の態度は、教師に対して潜在的圧力ともなりかねない現象であって、特殊学級の教師が多かれ少なかれ経験することの多い問題であるが、教師との間に積極的に、指導方針なり、精神薄弱児教育の目標などの理解を得て、融合的関係をもつことが緊要であろう。われわれが多くの学級において、教師から、あるいはまた、親から訴えを聞くことは、両者の関係の

不融合状態についてである。

これらの状態は、結局、教師の努力が実を結ぶことが少なく、かつまた、親の態度が子に反映して、児童・生徒自身が最も不幸な状態にとりのこされてゆくことになるのである。ことに、最近は、特殊学級の急増によって担任教師に未経験者の比率が多くなり、過去10年の間のベテランといわれる経験の多い教師が少ないので、学級に対する親の態度が次第に選択的な気持をもつようになって、小学校から、中学校への進学の際に、教師を評価する他の父兄の声をもとに、学区を越えた他校への進学を希望するものが増加している傾向がある。これは、すでに発表してきたいくつかの論文の結果でも予想されたことでもあり、単に親の態度のみを問題にするよりも、教師の側に、および教師の育成の面において多くの反省すべき点を含んでいるものといえよう。

これは、名古屋市内のような都市部で選択可能の地区において具体的な事実となってあらわれようが、親が子の教育に対し、かつ、期待の面で強いものほど、このような、よりよい教師を得たい願いは無理もないことで、このような選択の機会さえめぐまれない地区の特殊学級教師と親との関係においては考慮すべき多くのものがある。

IV 6. 入級後の親の満足度と IQとの関係

Table 7 に示すように、積極的に「よろこんでいる」親の態度は、IQ の低い子をもつ者ほど多い傾向がみられるが、逆に「普通学級にもどしたい」と考えている親は IQ が高い子をもつ者ほど多い。この 2 つの傾向は、丁度対照的であるが、「よくなっているかない」、「特に何も感じていない」という態度のものは、IQ との間には、ほとんど関係はなく、「一応満足している」親の態度も IQ

精神薄弱児教育に関する研究

Table 7 特殊学級入級後の親の満足度と子供のIQとの関係

I Q 分布	親の気持	とんでもないよろこび	一応満足して	特んじなくていい	よかくなつてない	普通した級いにも	その他の	無回答	計
不 能	9 64.3	4 28.6	1 7.1						14 1.6
~24	5 45.5	4 36.4	1 9.1	1 9.1					11 1.4
25~49	100 56.2	53 30.3	8 4.6	7 4.0	2 1.1	2 1.1	5 2.7	177 20.0	
50~74	163 34.7	172 36.4	37 8.1	19 4.1	39 8.3	16 3.7	22 4.7	469 53.1	
75~	48 28.3	57 33.3	13 7.6	6 3.5	23 13.8	6 3.5	17 10.0	170 19.1	
不 明	13 31.0	15 35.7	5 11.9	5 11.9	2 4.8		2 4.8	42 4.8	

とはほとんど積極的な関係はみとめられない。

IV 7. 入級後の親の満足度と社会階層との関係

特殊学級に子を入級させた後の親の特殊学級に対する満足度と、担任教師が評価した親の社会階層との関係をみたのがTable 8である。親の社会階層は、下層にやや傾いている傾向があるが、上、中、下の3層も満足度においてはほとんど差ではなく、特徴的な傾向はみとめられない。ただわずかに指摘されるのは、「特になにも感じていない」とするものが中、下層にやや多く、「よくなっているか」期待に反しているとするものは、上層にわずかに多いようである。

これは、一応理解しうることであり、この2つの項目が、Table 7に示すように、子のIQとの関係では全く

Table 8 特殊学級入級後の親の満足度と社会階層との関係

社会階層	親の気持	とんでもないよろこび	一応満足して	特んじなくていい	よかくなつてない	普通した級いにも	その他の	無回答	計
上	19 38.0	21 42.0	1 2.0	5 10.0	4 8.0				50 5.7
中	210 40.7	188 36.1	33 6.3	20 3.8	35 6.5	15 2.8	20 3.8	521 59.0	
下	105 34.6	94 30.9	30 9.9	14 4.9	26 8.3	10 3.3	25 8.1	304 34.4	
無回答	4 50.0	2 25.0			1 12.5		1 12.5	8 0.9	

差がなかったことと対照されることである。また、このことは、次表と関連があろう。

IV 8. 入級後の親の満足度と教育的熱意との関係

次に、親の満足度と、教育的熱意との関係をみてみたのが、Table 9である。教育熱意が強いということは、いろいろな面から、特殊学級に多くの期待をかけていることになるわけであるが、これは、精神薄弱児をもつ親が、子供についてそれなりの期待をもつことは当然である。Table 9についてみると、まず、熱意が「強い」と教師が評価した親は、満足度も最も強く「とてもよろこんでいる」が圧倒的に多く、「普通」と評価されている親は、「一応満足している」が最も多く、熱意の「弱い」と評価されている親は、「特になにもかんじていな」が、他の熱意度の反応、ことに「強い」とされている親に比して多い。

Table 9 特殊学級入級後の親の満足度と教育的熱意度との関係

熱意度	満足度	とんでもないよろこび	一応満足して	特んじなくていい	よかくなつてない	普通した級いにも	その他の	無回答	計
強	140 55.7	74 29.4	6 2.3	10 4.0	14 5.6	4 1.5	4 1.5		252
普通	129 32.2	169 39.7	38 9.5	18 4.5	30 7.5	8 2.0	19 4.6		401
弱	66 31.8	57 27.4	20 9.7	10 4.8	21 10.0	13 6.3	21 10.0		208
無回答	3 25.0	5 41.7		1 8.3	1 8.3			2 16.7	12

このことは、満足しているから、熱意が強いと教師に評価されるようになるのか、熱意が強いと評価されている親は、次第に満足度が強くなるのか、この両者の関係の成立の機制は、この結果からのみでは、速断はさけなければならないが、この両者にかなり強い関係があることは、興味深いことである。なぜならば、このことが、特殊学級における教師に対する影響、すなわち、親の態度が教師の児童・生徒に対する指導への熱意にかなり直接にひびくことは、われわれの過去の調査の結果でも明らかにされていることであるからである。

さきにも一寸触れたが、大都市のごとく、学級が近距離に多く存在し、「手をつなぐ親の会」などで親同志が相互の連絡、話し合いの機会を多くもちうる地域において

* 「特殊学級教師の行動パターンの形成と変化に関する研究」名古屋大学教育学部 紀要 第8巻 1962

共 同 研 究

では、教師に対する評価がかなり強まっている最近の現象や、昭和38年、39年度のわれわれのY.S.学級の授業分析の研究においても、両学級の教師と生徒との関係と、親の態度などは、かなり一貫した傾向を示していたことからも、多くの問題をはらんでいると思う。教師の児童・生徒に対する指導態度は、親によって、子供の態度の変化を通して敏感に読みとられていることである。このことが、親の教師に対する好意的、あるいは拒否的、不平、不満の態度を形成し、特殊学級に対する熱意度や、満足度をいろいろの形に形成し、変容することにつながるものである。調査対象の2学級のうち、われわれが好ましくないと考えていたある学級の場合には、教師が、父兄会を開こうとしても、2、3人しか集まらず、教師は、親の態度を非難していたが、その学級の親に直接、話し合う機会をもってみると、教師に対して完全に背をむけた態度で、その学級に進学する学区の小学校の特殊学級の親までにそのことが反映し、その教師の担任する学級に児童を入級させることさえ、極めて憂慮しているような実状がわかった。

このような場合、教師によって親の教育的熱意は、「強い」とされるはずではなく、また、親の満足度も低くなることは当然である。

従って、最も基本的なものは、教師の児童・生徒に対

する指導方針、教育的態度に問題があることである。教師の態度が好ましければ、それは、必ず、親により循環性をもたらせるようになり、それが、教師の児童・生徒の教育、指導の実践にはねかえってくるのである。逆に、教師の指導方針や、態度が好ましくなければ、悪循環性をもって、ますます教師の指導を困難にさせてゆくのである。

親が、特殊学級教師を選択する傾向は、望ましい現象といえないことはいうまでもないが、このような現象をひきおこしている最近の特殊学級の在り方、内容については、多くの問題をはらんでいるのである。

IV 9. 児童・生徒の将来に対する親の期待とIQとの関係

本項目は、児童・生徒の将来についていかなる点に期待をもっているかを具体的に自由に記述させる方法をとった。従って、内容には、学級における将来の期待や、成人に達するまでの将来に対する期待まで、種々なものが含まれているが、それを、Table 10のようにわれわれの方で内容項目を分析した。このような自由記述方式では、記載に無理な点が多くなり、約30%の無回答が出た。これは、結果の分析を不満足の段階にとどめざるを得ないことになったが、反応についてみると、「社会的自立をして、就職出来るようになってほしい」が最も多

Table 10
将来に対する親の期待とIQとの関係

期待 項目 分布	1 学習	2 身辺	3 結婚 ・家庭	4 社会 ・自立	5 能 力 ・ 自立	6 精 薄 職場	7 社会 ・ 成長	8 特 に な い	9 そ の 他	10 無回答	計
不 能		2 14.3		4 28.6	5 35.7		1 7.1			2 14.3	14
~ 24				3 27.3		1 9.1	3 27.3	1 9.1	1 9.1	2 18.2	11
25 ~ 49	9 5.1	7 4.0	1 0.6	56 31.6	23 13.0	8 4.5	26 14.6	3 1.7	6 3.4	38 21.5	177
50 ~ 74	14 2.7	6 1.3	3 0.6	128 27.3	35 7.0	12 2.5	91 19.8	8 1.8	22 4.7	150 31.7	469
75 ~	6 3.5			25 14.7	9 5.2	3 1.8	41 24.1	4 2.7	6 3.5	76 45.5	170
不 明	1 2.4	1 2.4		6 14.1	4 9.5	1 2.4	9 21.4	2 4.7	6 14.1	12 29.0	42

将来に対する期待の項目

- 1 学習……学習面でもっと覚えてほしい。
- 2 身辺……身辺的自立。
- 3 結婚・家庭……結婚し、家庭づくりが出来るよう
になってほしい。
- 4 社会・自立……社会的に自立し、就職出来るよう

になってほしい。

- 5 能力・自立……能力なみの自立。
- 6 精薄・職場……精神薄弱児のために職場へ行かせ
たい。また施設を要望する。
- 7 社会・成長……社会的人間の成長。

精神薄弱児教育に関する研究

Table 11

将来に対する親の不安と IQとの関係

不 安 項 目	1 学 習 面	2 結 婚 ・ 家 庭	3 社 会 ・ 自 立	4 社 会 ・ 成 長	5 侮	6 非 行 化	7 特 に な い	8 そ の 他	9 無 回 答	計
不 能			6 42.9	1 7.1	1 7.1	1 7.1		4 28.6	1 7.1	14
~ 24		1 9.1	5 45.5	1 9.1	1 9.1			1 9.1	2 18.2	11
25 ~ 49	6 3.4	17 9.6	66 37.6	20 11.3		4 2.3	3 1.7	20 11.3	47 22.8	177
50 ~ 74	8 1.7	18 3.8	140 30.3	65 13.6	16 3.4	17 3.6	17 3.6	53 11.3	135 28.7	469
75 ~	7 4.1	2 1.2	33 18.8	24 14.1	6 3.5	8 4.7	9 5.3	18 10.6	64 36.7	170
不 明	1 2.4	1 2.4	9 21.4	4 9.5	1 2.4	3 7.1	1 2.4	7 16.7	15 35.7	42

1 学 習 面……学習でのびてくれるかどうか。

2 結 婚 ・ 家 庭……結婚や家庭づくりがうまく出来るか。

3 社 会 ・ 自 立……社会的自立、就職。

4 社 会 ・ 成 長……社会的に人間として成長すること。

5 侮 哮……他の人達から侮辱をうけたり軽蔑されたりすること。

く、次いで、「社会的な人間として成長してほしい」というものが多い。この2つで、反応の70%~80%をしめており、圧倒的に多いが、IQの段階との間には、特記すべき傾向は見出せない。

IV 10 将来に対する親の不安と IQとの関係

次に親が児童・生徒の将来について不安の面から考えたのが、Table 11である。これは、親の期待という積極的な考え方ではなく、親の内面にひそむ将来への不安の型で反応を得たものであるが、「社会的自立」と、「社会的人間としての成長」が、前項の親の期待と同様に最も多いが、親の不安については、IQとの間に若干の傾向を見出しうるようである。

まず、「社会的自立をして、就職出来るようになってほしい」ということの不安をもつ親は、児童・生徒のIQが低いものほど多くなっている。また、逆に、「社会的人間として成長すること」の不安については、IQが高い児童・生徒の親ほど多くなっている。

この2つの対照する項目をみると、IQの低い児童・生徒をもつ親の不安は、まず、社会的自立をしてくれるかどうかということであって、社会的人間として成長することへの不安は、さらに次の高い水準のものであって、低IQの児童・生徒の親は、そこまでの高まりをも

つことはできないといえる。その他の項目は、いづれも反応数が少なく、これらはいづれも特徴的傾向は見出しえなかった。

V 要 約

本研究が意図した目標のうちで、精薄児の親の子に対する認知の変化の過程を把握することは、方法的に無理があって、親から、われわれが意図したような内容の反応をうることはできなかった。しかし、特殊学級への入級、および学級に対する態度、あるいは、将来に対する期待と不安については、ある程度、精薄児の親の特殊学級に対する態度はとらえ得たといえる。

(1) 特殊学級入級についての親の態度は、低IQの児童・生徒をもつ親ほど、入級を希望する傾向があり、高IQになるにつれて、入級にとまどいを感じる傾向がみられる。これは、一応当然なことであるが、IQ50~74までの入級基準に該当する児童・生徒の親のうち、4分の1までが、入級を希望していなかったということは、親の理解にまだ、不充分な面が多くあることを示唆しているものである。

(2) 入級に対する親の態度は、社会階層の面では、特別な関係がない。

共 同 研 究

(3) 特殊学級に入級させてからもさらに学習（学力の発達）を期待する親は、失望を感じ、普通学級にもどしたいという希望をもつ傾向がある。これは、児童・生徒のIQが高い場合に、その傾向がみられる。

(4) 親の教育的熱意の強さと、入級についての親の満足度との間にはかなり密接な関係がある。すなわち、満足度の強い親は、教育的に熱意があると教師が評価しており、逆に、親が特殊学級に非好意的なものは教師から教育的に不熱心とみられている。

(5) 親の児童・生徒に対する不安は、低IQ児については、「社会的自立」の可否に関して多く、高IQ児については、社会的に人間として成長することの可否につ

いて多い傾向がある。

以上のような諸点について、親の態度の傾向をえたが、今回の調査の場合、既述したように、精薄児の親に対して、質問紙法、ことに自由記述形式の項目は、極めて困難であることがわかり、反省させられるものである。

このような、一斉調査によってえた資料は、さらに、個別的な面接などの方法によって深められてゆかなければならぬことはいうまでもない。今回はそこへの一段階として、特殊学級に対する親の態度を中心に概略的な結果を一まとめおくことにとどめた。

精神薄弱児教育に関する研究

附表 1

男・女

小・中

児童・生徒氏名	学年	生活年齢(満)	IQ・偏差値(式)	精薄の原因別	親職の業種母の有無	家族構成	社会階層の段階	親の子供の教育・特殊学級への熱意	PTA等の会合への参加度	親への調査票提出度	No.
小 中 1 5 1 2 6 2 3 3 4	才					父 健・死亡 母 健・死亡 同胞	上 中 下	強 普通 弱 その他 ()	熱 普無 関 心通心		
小 中 1 5 1 2 6 2 3 3 4	才					父 健・死亡 母 健・死亡 同胞	上 中 下	強 普通 弱 その他 ()	熱 普無 関 心通心		
小 中 1 5 1 2 6 2 3 3 4	才					父 健・死亡 母 健・死亡 同胞	上 中 下	強 普通 弱 その他 ()	熱 普無 関 心通心		
小 中 1 5 1 2 6 2 3 3 4	才					父 健・死亡 母 健・死亡 同胞	上 中 下	強 普通 弱 その他 ()	熱 普無 関 心通心		
小 中 1 5 1 2 6 2 3 3 4	才					父 健・死亡 母 健・死亡 同胞	上 中 下	強 普通 弱 その他 ()	熱 普無 関 心通心		
小 中 1 5 1 2 6 2 3 3 4	才					父 健・死亡 母 健・死亡 同胞	上 中 下	強 普通 弱 その他 ()	熱 普無 関 心通心		
小 中 1 5 1 2 6 2 3 3 4	才					父 健・死亡 母 健・死亡 同胞	上 中 下	強 普通 弱 その他 ()	熱 普無 関 心通心		
小 中 1 5 1 2 6 2 3 3 4	才					父 健・死亡 母 健・死亡 同胞	上 中 下	強 普通 弱 その他 ()	熱 普無 関 心通心		
小 中 1 5 1 2 6 2 3 3 4	才					父 健・死亡 母 健・死亡 同胞	上 中 下	強 普通 弱 その他 ()	熱 普無 関 心通心		

共 同 研 究

附表 2

S-P-M-D 調査票 (II)

1. お子さんのちえのおくれは、どの程度とおもっておられますか。

(思ったものに○をつけて下さい)

とても ひどい	かなり ひどい	少しだけ	ほんの わづか	ほとんど おくれていない	<input type="checkbox"/>
------------	------------	------	------------	-----------------	--------------------------

2. お宅はお子さんは何人ですか。

名

(2人以上の場合) このお子さんは他の子供さん達に比べて行動、動作などで目立ちますか。

(○印をつけて下さい)

ひどく 目立つ	かなり 目立つ	少し 目立つ	ほんの少し 目立つ	目立たない	<input type="checkbox"/>
------------	------------	-----------	--------------	-------	--------------------------

3. 子供さんのちえが少しおくれているのではないかということは、一番はじめどんなことから感じましたか。

(○をつけて下さい。)

ことばがおそい	あるきはじめがおそい	<input type="checkbox"/>
乳のすいつきがよわい	うごきが少い	
からだが小さい	からだがよわい	<input type="checkbox"/>
幼稚園に入ってから	小学校に入ってから	
その他次のことで (_____)	(ありのままかいて下さい)	

4. 最初にこのことで検査をうけたのは、お子さんのいくつのときですか。

才	ヶ月頃	診察の場所 :	近所の医者	公立病院	大学病院	<input type="checkbox"/>
(○でかこんで下さい)				その他の病院か施設		<input type="checkbox"/>

5. 病院(又はその他のところ或は学校)でちえがおくれているといわれて、始めてちえおくれを知ったときどんな気持になりましたか、かんじたままをお書き下さい。(出来るだけくわしくおねがいいたします。)

6. それからあとはどんなことでお子さんをよくしようと努力しましたか。

7. お子さんは、今までの間に、動作や行動、その他のことでかわりましたか。かわりましたらどのようにいつごろからかわりましたかを思ったままをお書き下さい。

8. 今日までの間、お子さんをそだてて叱られて、あなたの考え方やお気持もいろいろかわってきたと思いますが、はじめのお気持は、5.でお書きしましたがそれから今までにあなたの気持はどんなようにかわってきましたか。出来ればお子さんの何才(又は何年生)の頃にはどうかわったかと具体的にお書きいただければと思います。

精神薄弱児教育に関する研究

9. 特殊学級があることをどこから知りましたか。

- 受持の先生からきいた その他 ()
- 病院、児童相談所できいた (かいて下さい)
- 新聞でみた
- 近所からきいた
(○をつけて下さい)

10. 特殊学級へお子さんを入れるときにどんなお気持でしたか。 (○をつけて下さい)

- 本当はいやだった
- 他のきようだいがいやがった
- ぜひ入れてほしいと思った
- 他の親の様子を見て入れた
- その他 ()
(思ったままかいて下さい)

11. 特殊学級に入ったのは何年前ですか。

- お子さんの小・中 学校 の年のときから
- 今年で 年目

12. 特殊学級へ入ってよかったです。 (○をつけて下さい)

- | | | | | |
- とても よろこんで 特になんとも よくなっ 普通の学級へ
よろこんでいる いる 思っていない ゆかない もどしてほしい
- その理由をかいて下さい ()

13. 今の学級でもっとああしてほしい、こうしてほしいということがありましたらえんりょなくかいて下さい。

14. 将来お子さんについて、どのようになってほしい、或はどのようにしたいとお考えですか。

15. 将来のお子さんことで一番心配していることはどんなことですか。

16. お子さんの学級の P T A (父兄会) には出席されますか。

- | | | |
- ほとんど ときどき ほとんどいつも
出ない 出る 出る

出ない方はその理由をおかげ下さい。

()

17. 手をつなぐ親の会がありますが、入っておられますか。

- 入っている (○をつけて下さい)

入っていない

入っている方は、どういう点でよいと思いますか。

もっとこのようにしてほしいという希望がありましたらお書き下さい。